

- 土砂災害の危険が非常に高まったとき、北海道が「土砂災害警戒情報」を発表します。
- 後志地方では、1時間雨量80mmを観測した場合「記録的短時間大雨情報」を発表します。
- 注意報、警報、特別警報は、気象庁等が発表します。
- 大雨警報や大雨特別警報は、(浸水害)(土砂災害)のように、特に警戒すべき内容をカッコ書きで発表します。

雨の状況	気象庁が発表する情報			町の対応	住民の行動
	土砂災害	浸水害	洪水		
大雨の可能性が高くなる	大雨に関する気象情報			・気象情報を収集	・空の変化、気象情報に注意する
大雨が始まる	大雨注意報		洪水注意報	・注意を呼びかけ ・警戒すべき地域を巡回	・危険な箇所、避難場所や避難ルートを確認する ・非常持出品を点検する
強さが増す	土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)	大雨警報(浸水害)	・住民に警報を伝える ・避難場所の準備、開設 ・必要地域に避難準備(要援護者避難)情報を流す ・応急対応態勢を確立 ・必要地域に避難勧告・指示 ・避難を呼びかける	・避難の準備をする ・危険な場所には近づかない ・日頃と異なった外の様子があれば、役場に連絡する ・早めに自主避難する ・役場から避難の勧告・指示が出たら避難する
2時間～数時間続く					
大雨が一層激しくなる					
数十年に一度の大雨	大雨特別警報(土砂災害)	大雨特別警報(浸水害)	洪水警報	・非常に危険な状況であることを住民に伝える ・ただちに最善を尽くして身を守るよう呼びかける	・ただちに命を守る行動をとる ・避難所に避難する ・外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる

※「特別警報」とは

気象庁では、警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、大雨や暴風雪などの「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけます。

自助・共助・公助について

自助

自分で自分や家族を守る

☑日頃から家族で話し合い
チェックしておきましょう

- ☐自宅の耐震診断・補強、家具の固定
- ☐地震が起きたら、どう行動するか
- ☐ハザードマップを使って地域の特性や避難所の場所などを確認
- ☐食料と水の備蓄
- ☐非常持出品の準備と保管場所
- ☐災害時の連絡方法

共助

地域や事業者が助け合って守る

- ☐地域の防災活動
- ☐みんなで、まちの安全点検
- ☐災害時には助け合って救出、初期消火

公助

行政による防災・減災対策

- ☐公共施設を整備・拡充し、災害に強いまちづくりを推進
- ☐自助・共助を支援し、地域の安全を確保する

(1) 大雨・土砂災害が発生したときの、避難先・避難方法

▶ 町は、現地の情報を聞き、避難先を判断します。

町から避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)が出たら、指示に従って、早めに避難しましょう。

▶ 町から指示がなくても、危険を感じたら、自主的に避難しましょう。

	町が発令するめやす	避難先・避難方法
避難準備・高齢者等避難開始	●避難に時間がかかる人が避難を開始する段階に来たとき、災害の発生する可能性が高まったとき。 ・「大雨警報」が発表される ・河川の氾濫が予測される など	◎浸水やがけ崩れの状況に応じて、町が避難先を指示します。 婦美会館、丸山会館 ●徒歩または車で避難します。 ●車で避難する方は、車で避難できない隣近所の方を乗せるようにしましょう。 ●避難するとき、道路冠水、がけ崩れや土石流に注意しましょう。
避難勧告	●災害が発生する可能性が明らかに高まったとき。 ・「土砂災害警戒情報」が発表される ・土砂災害の前兆が発見される ・床下浸水や道路冠水が発生しそうな状況になる など	浸水・がけ崩れの心配がない家の方は、自宅で待機した方が安全な場合もあります。 ●近所の方の避難を一時的に受け入れるようにしましょう。 ●安全が確認され次第、町が指示する避難所へ移動(二次避難)します。
避難指示(緊急)	●災害が発生する危険性が非常に高いと判断されたとき。 ●災害が発生したとき。 ・「土砂災害警戒情報」の基準を超える土砂災害が発生 ・床下浸水や道路冠水が発生 など	

(2) 留意事項

- 普段から土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の指定箇所について確認しておきましょう。
- 経験したことがない大雨の場合、山の水があふれ道路が冠水する場合、がけから小石が落ちたり水が湧き出している場合、地割れが起こった場合、川の流れが止まった場合などは、近所のがけや川の様子などに注意し、早めに避難しましょう。
- がけ崩れ、道路の冠水などの状況により、避難先が使用できない場合がありますので、そのときの状況により、できるだけ安全なところに避難しましょう。